

夢の実現に
向けて

早期発見・早期対応が要!!

～高崎健大教職支援センター事業の真骨頂～

教職支援
センター長
栗原 幸正

ソサイエティ5.0で示された多様性を生かした共生社会の創造に向けて、日本の特別支援教育は新たな方向性を模索しているところです。そのような特別支援教育のベースとなるのは、やはり「早期発見」「早期対応」の一言に尽きます。早い時期から自らの特性による困り感に気づき、困り感の軽減に向けて当事者だけでなく周囲の方々の支援の輪を構築していくことが強く求められています。

特別支援教育と同様に、現在の教育職・保育職の就職の流れも新たな方向性を目指しています。少子化の流れに加え、教員や保育士不足への対応で、既存の就職の流れが通用しなくなってきており、学生たちの困り感も高まってきています。そのような現状を踏まえ、高崎健康福祉大学教職支援セン

ターは、教育職・保育職を目指す学生たちの困り感の低減と夢の実現を目指して、センタースタッフがチームになって学生の困り感の「早期発見」「早期対応」に取り組んでおります。センタースタッフ一人一人がこれまで紡いできた実績をもとに、自らの専門性を最大限に発揮して学生の早期支援に臨みます。その結果、令和7年度は、学生たちは「安心感」を背景にしてチャレンジした結果、教員採用試験では84.8%の合格率を獲得し、公立保育園や行政等に12名が就職するという成果を生み出しました。

本年度の教職支援センターも、学生の自らの課題や進路を「早期発見」し、それに向けての支援に「早期対応」して参ります。

私たち 早めに就職が決まりました!

早期採用試験に
向けた取り組み

教諭

新潟県公立小学校
林 義己さん
(令和7年度卒業)



私は幼少期から教員という職業に憧れを抱いてきました。学童保育のアルバイトやボランティア活動を通して、子どもたちの成長に関わり、可能性を広げることのできる仕事に大きなやりがいを感じるようになりました。大学では教職課程の講義や教育実習で学ぶことで、教員という職業の魅力や責任の大きさを実感し、教員を目指す思いがより一層強くなりました。

私は新たな制度である大学3年次教員採用試験を受験し、一足早く合格することができました。受験に向けては教職支援センターを活用し、試験対策講座や面接指導に積極的に参加しました。先生方から苦手分野の対策や具体的なアドバイスをいただけたことで自分の考えをより深めることにつながりました。早期に合格できたことで、その後は卒業論文にじっくり取り組むなど、大学生活後半の学びをより充実させることができました。教員採用試験の準備は早めに始めることが大切です。教職支援センターの支援を積極的に活用しながら、自分の夢の実現に向けて努力してほしいと思います。

保育士

栃木県佐野市公立保育所
佐藤 舞果さん
(令和7年度卒業)



私は保育士になりたいと考えつつ、いざ就活が始まった時どうすればいいのかわかりませんでした。試験や面接は自分には難しいだろうと挑戦することにためらいがあったのですが、教職支援センターのサポートがあって、希望の就職先に早期で合格することができました。センターでは、各々に合わせた試験対策を手厚くおこなってくださいます。なにより先生方の積み重ねた知識と経験が「私も合格できるかも!？」と自然と思わせてくれました。頼りがいのある先生方ばかりなので、就活に不安でいっぱいの方はぜひ足を運んでみてください。

ここで早期試験についてもお話をさせてください。早期試験に合格すると、就職までに充分な準備期間があるので心に余裕ができます。また、数か月かけてピアノや手遊びの復習に取り組めるため、就職への準備に全力投球できるのです!これを見るまで早期試験に興味なかったという方は、ぜひこのメリットを頭の片隅に置いておいていただけると嬉しいです。より良い学生生活をエンジョイするために就活も頑張りましょう!応援しています。

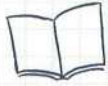
小学校、中学校…、
幼稚園、保育園…、
進路に悩みを持つ
学生に優しく丁寧に
寄り添います！

教職支援センター

学生を応援します



本センターは、文部科学省が推進する教職課程の自己点検・評価実施のための事務局として、教職課程の質の向上に取り組んでいます。



教員免許状一括申請・ 保育士登録関連事業



卒業年次生の便宜を図るため、各学生からの申込書類を一括して関係機関に申請する業務を行っています。そのため教員免許状については、学位記授与式当日に受け取ることができます！



採用試験対策講座& 模試の計画・実施



教職指導主事による採用試験に向けた対策講座を毎週実施しています。また外部業者と連携したオンデマンド動画配信も実施し、各自のスケジュールに合わせた試験対策ができるよう支援しています。

進路相談・ 各種面談の実施

進路の悩みや学習の相談はもちろん、論文や書類の書き方、面接指導などきめ細やかに対応します。



教職履修カルテに 関する先進的な取り組み

教職課程に必須とされる履修カルテについては、他大学ではあまり例のない独自のクラウドシステムを活用し、学生や教員の利便性向上と情報の一括管理を図るなど、先進的な取り組みを行っています！



各種有償ボランティア 窓口事業

高崎市内の小・中学校を中心に、子どもたちの支援を目的とした各種有償教育ボランティアの紹介・斡旋を行っています。参加した学生は、子どもたちとのふれあいを通して教育職・保育職に対する自らの資質を高めています！



先輩と語る会

各種対策講座



各種対策講座



採用試験に向けた
個人指導・面接



教職支援センター 令和8年度スタッフ紹介



センター長	栗原 幸正
副センター長	三村 国宏
専属教員	北村 陽
教職指導主事	伴内 弘美
	平林 茂
	角田 映子
	後藤 章
	中村 秀樹
専任事務職員	針谷 和穂子

教職支援センター案内図

教職支援センターは9号館の1階にあります。



夢を実現
させた!

教育職・保育職で働きたい!! 卒業生からのメッセージ

Message from Graduates



教諭

群馬県公立小学校
(中学校英語合格)
メモドアイシャさん
(令和7年度卒業)



私はこれまで多くの先生方に支えられてきました。今後は私が子どもに寄り添える教師になりたいと思い、大学生活を過ごしてきました。教師を目指すにあたっては不安な気持ちもありましたが、教職支援センターの講座へ参加し、いつでも話しやすく相談しやすい先生方や共に学ぶ仲間のお陰で頑張りができました。講座では専門的な知識に限らず、先生方の小・中学校で勤務していた際の豊富な経験を学べたことにより子どものための教師の在り方や教育について考え続けることができました。二次試験対策では、面接を受けている時の様子や話した内容について、先生方からの分析や的確なフィードバックをしていただいたことで本番でも自信をもって試験に挑むことになりました。今後も私は、教師を目指して挑戦する皆さんを応援しています!

教諭

埼玉県公立小学校
山元 一真さん
(令和7年度卒業)



私は、高校生の時に教えることの楽しさを知り、小学校教員を目指しました。その実現のために筆記試験・面接練習等に全力を尽くすと考えました。しかし、教員採用試験は私が思っていた以上に辛く最後まで続けるのが大変でした。特に、文章を書くことや集団の話し合いが苦手な私にとって小論文、集団討論が難題でした。これに対して教職支援センターは、小論文の序論から結論までの具体的な書き方や、討論の話し合いの流れや意識すべきことについて丁寧に指導してくれました。また、放課後に書いた小論文も添削してくれるなど、個別に対応していただきました。最後まで親身になって指導してくれたおかげで自信をもって試験に向かうことができました。私は「教員になる」という情熱だけは誰にも負けないよう努力してきました。これからもこの気持ちを忘れずに、子どもたちにとって素敵な教員になれるよう努力を続けていきたいと思います。

教諭

群馬県立特別支援学校
河崎 歩果さん
(令和7年度卒業)



私は教師をしていた祖父母に憧れを抱いたと共に、障害のある子ども一人一人と丁寧に向き合いたいという思いから特別支援学校の教師を目指しました。大学三年時のチャレンジ選考試験では不合格という悔しい結果に終わり、下学年と共に一般教養・教職教養の演習に取り組むことに覚悟を決めました。参加するには抵抗がありましたが、支援センターの先生方が温かい言葉をかけてくれたり、勉強に対して不安な気持ちになってしまった時は真摯に話を聞いてくれたりしました。そのお陰で心が折れずに努力を継続することができました。この経験を活かし、今度は私が子どもの気持ちを大切に、温かく見守ることができる教師を目指します。

看護教諭

栃木県公立中学校
塚原 かの子さん
(令和7年度卒業)



私は医療の専門知識を持つ看護教諭を目指し、看護学科の課程を選択しました。看護実習や膨大な専門科目の学習と、採用試験対策の両立に高い壁を感じることもありましたが、看護教諭課程の先生方や仲間と励まし合うことで乗り越えることができました。特に教職支援センターの先生方には、試験の最後まで手厚く支えていただきました。対策講座で教職教養の理解を深められただけでなく、面接練習や様々な相談にも親身になってくださり、自分の目指す姿を明確に引き出してくださいました。このサポートのおかげで、本番も自信を持って臨むことができました。大学での学びを忘れず、子どもの心身の小さなサインにも気づき、一人ひとりに寄り添い続けられる看護教諭になれるよう精進していきます。

保育士

埼玉県熊谷市
児童養護施設
尾池 胡瑠美さん
(令和7年度卒業)



私は、地元の保育園に勤めたいという思いから保育士資格の取得を試みました。しかし、保育士という職業は多岐に渡っており、中でも児童養護施設の存在を知ったことが、私にとって大きなターニングポイントとなりました。

就職活動を始めた際は、どのように進めたら良いのか分からず、教職支援センターの先生方に相談しました。私の希望を聞きながら施設の提案をして下さったり、夏休み中も何度も指導して下さいました。おかげさまで、無事に採用が決まりました。

具体的な進路が定まっていなくても大丈夫です。初めて教職支援センターに行くことは緊張するかもしれませんが、きっとあなたの大きな一歩に繋がります。応援しております。

保育士

長野県佐久市
公立保育所
倉根 菜那さん
(令和7年度卒業)



私は初め、公立ではなくても子どもたちと関わることが出来ればどこでも良いと考えていました。しかし、先輩や教職支援センターの先生方の言葉や支えにより、自分も採用試験に挑戦してみようと思い、公立保育所を目指すことを決めました。試験を受けている間は不安が大きかったのですが、教職支援センターの先生方が何度も作文の添削や面接練習を行って下さったり励まして下さったりしたことがとても大きな支えとなりました。先生方の手厚いサポートがなければ合格することはできなかったと思います。

今後は、大学での学びを生かして、子どもの気持ちに寄り添い、子どもが主体的に成長していけるような関わりを大切にしていきたいです。皆さんも教職支援センターを活用しながら、頑張ってください!

保育士

群馬県高崎市
公立保育所
黒澤 花梨さん
(令和7年度卒業)



私は幼い頃から子どもと関わる仕事に就きたいと思い、保育士を目指してきました。高崎市の公立保育所を受験するにあたり、私は高崎市に住んでいなかったため、保育の取り組みや地域の特徴について自分なりに深く調べ、理解を深めることを意識しました。また、教職支援センターでは特に面接練習に力を入れてご指導いただきました。繰り返し練習を行う中で、自分の強みや考えを改めて知ることができ、自信を持って本番の面接に臨むことができました。その経験が合格につながったのではないかと感じています。

子どもや保護者の方々に寄り添いながら安心感ある保育者となれるよう、今後も学び続けていきたいと思っています。夢に向かって頑張ってください!

栄養士

群馬県公立中学校
西村 実紗さん
(令和6年度卒業)



私は大学4年生の時に栄養教諭を目指して教職支援センターの対策講座や面接練習に参加し勉強していました。しかし、志望するところには合格することが出来ず、その後他の募集等がありましたが、栄養教諭になりたい気持ちが強く、受験することを諦めました。

ご縁があり、中之条町で1年間だけ学校栄養士の臨時職員として働くことになり、実際に給食経営や衛生管理をしたり、児童と関わったりしている中で学校栄養士として働きたいという思いがさらに強くなりました。そんな時に大学の先生から群馬県の学校栄養士の募集があるとのお知らせを受け、試験まで2か月しかない中、挑戦するだけしてみようと思い、勉強を始め、受験しました。仕事をしながらでも合格することができたのは、教職支援センターの先生方や同年度の教員を目指す方々と面接練習を繰り返し行い、フィードバックをもらっていたからだと感じます。教職支援センターに行くまでは面接への苦手意識が強かったのですが、とても手厚いご支援のおかげで苦手意識はなくなり自信をもてるようになりました。

今後は、学校栄養士として働く中で児童生徒を食の面から支えていきたいと思っています。そして、栄養教諭としてしっかり児童生徒と関われるように学び続けたいです。

保育教諭

群馬県太田市
私立認定こども園
柿沼 玲菜さん
(令和7年度卒業)



私は小さい頃から子どもが好きで、いとこの面倒を見るのが楽しく、その経験から保育士を目指そうと思うようになりました。

園見学や説明会に参加する中で、それぞれの園の保育方針や雰囲気を知り、自分は保育において何を一番大切にしたいのかを改めて考え、就職先を決めました。また、教職支援センターの先生方には履歴書の添削や面接練習をしていただきました。何度も練習を重ねることで不安な気持ちが少しずつなくなり、自信をもって面接に臨むことができました。今後は大学で学んだことを活かすことで子どもの気持ちに寄り添いながら一人一人の成長を大切に、保護者の方にも安心していただけるような保育者になれるよう努力していきたいです。

保育教諭

群馬県前橋市
私立認定こども園
渡邊 美夢さん
(令和7年度卒業)



私は、子どもが好きで、特技のピアノを生かしたいという思いから、保育者になりたいという夢をもちました。実習を通して、子どもを支えながら成長をそばで感じられる喜びを強く感じました。また、自分が育った前橋市で保育に携わりたいという気持ちが芽生えました。教職支援センターの先生方には、面接練習などで大変お世話になりました。なぜこの園で働きたいのかを改めて考えることができ、自分が大切にしたい子どもの姿を明確にすることができました。そして、この園で働きたいと自信をもてるようになりました。先生方が私の内面を理解し、認める言葉をかけて下さったことも大きな励みでした。

これからはその言葉を胸に、育てたい子どもの姿を心に留め、自分らしく笑顔で子どもと向き合いたいです。